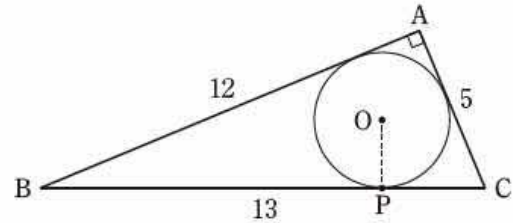


## 総合土木A（建設土木）

〔例題1〕 平面図形に関する次の文中のア、イに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

図のような、 $AB=12$ 、 $BC=13$ 、 $CA=5$ で、 $\angle A=90^\circ$ の $\triangle ABC$ がある。  
この $\triangle ABC$ の内接円 $O$ の半径は   
であり、内接円 $O$ と辺 $BC$ の接点を点 $P$ としたとき、 $BP=$   である。



- |    | ア   | イ   |
|----|-----|-----|
| 1. | 2   | 9   |
| 2. | 2   | 10  |
| 3. | 2.4 | 9   |
| 4. | 2.4 | 9.6 |
| 5. | 2.4 | 10  |

【正答2】

## 総合土木A（建設土木）

〔例題2〕 自動車は道路を走行するとき、運転者が前方に障害物を認めた場合に、衝突しないようにブレーキをかけて停止することができる距離を最小限必要とする。この距離を制動停止視距といい、道路の幾何学的設計における重要な条件の一つで、道路の設計上、制動停止視距は必ず確保されなければならない。

自動車の走行速度を  $V$  [km/h]、知覚反応時間（運転者が障害物を発見してからブレーキが効き始めるまでの時間）を  $t$  [s]、重力加速度の大きさを  $g$  [m/s<sup>2</sup>]、タイヤと路面との縦すべり摩擦係数を  $f$  [無次元] とすると、制動停止視距  $D$  [m] はどのように表されるか。

ただし、式中の数値3.6は、km/hをm/sに変換するための定数である。

$$1. D = \frac{V}{3.6} t + \frac{1}{2gf} \cdot \frac{V}{3.6}$$

$$2. D = \frac{V}{3.6} t + \frac{1}{2gf} \cdot \left(\frac{V}{3.6}\right)^2$$

$$3. D = \frac{V}{3.6} t^2 + \frac{1}{2gf} \cdot \frac{V}{3.6}$$

$$4. D = \left(\frac{V}{3.6}\right)^2 t + \frac{1}{2gf} \cdot \frac{V}{3.6}$$

$$5. D = \left(\frac{V}{3.6} t + \frac{1}{2gf} \cdot \frac{V}{3.6}\right)^2$$

【正答2】